

ここが知りたい！ (一般質問)

平成30年6月第2回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問 要旨
6月12日、村政に対して6人の議員が質問しました。

一般質問とは、議員が行政全般にわたり、事業の執行状況や将来に対する方針などについて質問したり、報告・説明を求めたりすることをいいます。

6月議会では、「ファームス木島平」に関する質問を中心に、以下の項目について一般質問が行われました。

1	土屋喜久夫 議員	1 再度、村民のための村政はすすんでいるか 2 農業委員制度の改正と今後の木島平農業の発展について 3 NTTのADSLサービス停止の対応について
2	萩原 由一 議員	1 ファームス木島平の現状及び今後は 2 庁舎周辺整備について 3 準用河川の整備について
3	勝山 卓 議員	1 農の拠点「ファームス木島平」の今後の運営について 2 馬曲温泉について
4	勝山 正 議員	1 産業ネットワーク協議会について
5	江田 宏子 議員	1 農の拠点事業の検証と今後について 2 副村長の就任にあたって 3 実践的な災害対策について 4 決算の考え方について
6	吉川 昭 議員	1 馬曲温泉の状況と源泉掘削について 2 ファームス木島平の公募に関する農村木島平(株)との1年間の経過と今後の運営について



答弁をする日墓村長



傍聴の様子

議 会

No.211



自然劇場

議会に対するご意見
をお聞かせください。

お電話の場合

☎82-3111(内線150)

E-mailの場合

gikai@vill.kijimadaira.lg.jp

発行：木島平村議会
編集：議会だより編集委員会



土屋喜久夫 議員

1. 再度、村民ための村政はすすんでいるか

質問

全ての公務については、公平感が重要であり、この検証は大変重要。計画的な村政の遂行は常に次の準備をしなければ、住民サービスは途切れてしまう。

①ファームス木島平について、村の名を汚さない対応は急務である。当面の管理及び中長期的な方策はどうか。

②村民意識と職員意識に差がある。村民福祉の向上に職員教育をどのように進めるのか副村長に伺う。

③事業効果を示す決算資料の作成は可能か。

村長

①施設全体の管理は当面村で行う計画で、レストラン、カフェ、加工施設、直売所は、農業振興公社となる予定。一斉にスタートは難しいが、特に超越していただいた皆さんへの

サービスは、早速に行いたい。これから有効活用を図る上で、村民にも親しんでいただけると、村を訪れる皆さんを歓迎する施設になる。

副村長

②職員は、村民の想いを実現するため、業務に取り組み自覚が必要である。職員は集落の中では一区民であり、地域に根差したものでなければならぬ。すべての職員が、積極的に村民と接していくよう取り組む。

総務課長

③事業が村民福祉の向上につながるか、当然検証は必要である。

再質問

ファームス木島平は当面、一部施設は動くようだが、将来の負担にならない方策が必要。

村長

村が自信をもって提供できる米、そばなどの農産物、また村のPRにもつなげていきたい。

2. 農業委員制度の改正と今後の木島平農業の発展について

質問

村の経済の基幹である農業と観光を標榜する木島平農業の発展に資する農業委員会制度と農業委員の任務を伺う。

農業委員会

平成28年4月1日の法改正で、重要業務が「農地等の利用最適化推進」と明確にされた。担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進が必須業務になった。

再質問

農業機械等で、資本が大変必要な事業。農地が株式会社等に開放になった。村内に新規就農個人ではなく、資本金のある組織が入る可能性が高いが。

農業委員会事務局長

単純に木島平村の問題だけではなく、大きな流れは世界、グローバル化して農業をどう進めるかに集中してくる。

3. NTTのADSLサービス停止の対応について

質問

NTT東日本がADSLサービスを停止、順次光回線へ切り替えるという報道があり、詳細の状況は、どう対処されているか。公的サービスを低下させないことが、村民を支えるのでは。

総務課長

要望や相談のあった方には、村の情報施設を利用したネット接続を案内している。

再質問

働き方改革でテレワークが具体的に提唱されており、資源として、木島平村が張り巡らせた光ケーブルが活用できるかどうか。非常に多くの投資をしている。村民サービスもあるが、村が進める移住定住施策の可能性はどうか。

総務課長

インターネットの速度を3段階にし、家庭、営業・業務用として使いやすい状態に変更した。

お知らせ

○9月定例会の開催予定

8月30日(木)

～9月14日(金)

○請願・陳情の受付締切日

8月23日(木)

請願・陳情の受付締切日は、議会開会日1週間前です。

開会日をご確認のうえ、早めに議会事務局に提出してください。

なお、直接、議会事務局にご持参のうえ、事務局員に説明をお願いします。



萩原 由一 議員

1. ファームス木島平の現状及び 今後は

質問

①多くの村民が関心を寄せているファームス木島平について、十分な説明を。

②農村(株)が村の補助金で購入した物品の取り扱いも問題。一般企業への備品の補助金交付について、要綱を見直す考えは。

③農村(株)への補助金合計額、ファームス木島平にかかった修繕費と改修費用、今後予定されている費用額は。

村長

①有効活用し、村の産業振興と活性化につなげる。方法については、今議会を通じて、また別の機会でも村民の皆さんにご理解いただけるよう進めていく。

産業企画室長

②平成26年度実施された「農の拠点施設整備事業」は、平成27年度から施設の管理運営を始めるにあたり、必要な什器

備品、消耗品等を村の補助金で整備した。購入補助が1千万円、人件費補助が665万円。詳細な取扱いを定めた「交付要綱」等はなく、一般的な補助金の執行を適正に実施するために定めた補助金「交付規則」で実施した。

今後は、対象内容や事業完了後に取得した財産の取扱い等を定めた要綱等により適正に実施したい。

③3年間で「農村(株)」に出した補助金はなく、指定管理費として支払った金額は、平成27年度1240万円。平成28年度790万円。平成29年度430万円。合計2460万円。

「ファームス木島平」にかかった費用は、3年間の合計で約3661万円。

今後の修繕、改修予定は老朽化が激しいトイレより西側(案内所側)の屋根。トイレより東側(食堂・カフェ側)は、老朽化が進んでいる部分の修繕は必要になる。具体的な修繕方法や金額等の詳細な検討は行っていない。当面は最低限の修繕をしながら施設の管理運営を進めていく。

再質問

利活用検討委員会の意見もあり、広く村民から意見を聞く場が必要では。

村長

これからも、村民の皆さんのご意見を伺う場を設けたい。夏に向け早期に再開したい。

2. 庁舎周辺整備について

質問

旧庁舎の跡地利用について、有効利用と財源について、検討委員会を立ち上げたと言明されたがどのような構想か。

総務課長

総務課が事務局。委員は各係長。跡地を含めた道路や案内表示、新しい庁舎への動線の整備や来庁者が利用しやすい駐車場の位置を考えたい。全て一般財源で事業を進める事は財政的に厳しい。少しでも特定財源が確保できる事業にしたい。

3. 準用河川の整備について

質問

飯山市南端地区と穂高地区の堺を流れる通称「烏川」。基盤整備後、河床整備等が行われず、土砂やゴミの堆積、法面の変形他の河川との合流点の洗堀、雑

木の繁茂等で流れに支障がある。この川は準用河川だが、今後の整備予定は。

建設課長

基点から戸那子排水機場までは、木島平地籍のため村が管理維持管理費用は、大規模改修(4億円以上)でない限り、村の負担。過日、現地踏査を行い浚渫(しゅんせつ)・水底をさらって土砂などを取り除くこと)箇所、護岸の補修箇所、支障木の伐採箇所等を確認。村内でも災害の多い河川と認識している。村内12カ所ある準用河川の状況や緊急性を考慮し計画的に修繕したい。

再質問

今年の台風21号の増水時に排水機場は機能していたか。点検等の頻度は。

他の河川と直角合流のため、流れに支障がある。それらを考慮して整備計画を。

産業課長

今年の台風の増水時に、吐出槽の排水ゲートの異常が見られた。排水機場運転委員会が組織されており、ゴミの除去等、定期的に行っている。吐出槽の排水ゲート異常については全額県費で修理は完了している。



勝山 卓 議員

1. 農の拠点施設「ファームス木島平」の今後の運営について

質問

4月1日より村直営となったが、道の駅機能を除く事業が休業状態。次の項目について伺う。

①開業からの来客数・売上実績の推移と評価は。

②事業方針が決定しているにもかかわらず事業の進展が見られないのはなぜか。

③レストラン・カフェ・直売所等の運営を農業振興公社（以下「公社」）に依頼。7月中旬試験営業、9月下旬～10月上旬には営業再開を目指すとの説明。協議は整っているか。また、事業計画・収支計画を示されたい。

④前指定管理者（以下「前管理者」）への平成26年度「農の拠点施設運営補助金」処理は規則に沿ったものか。また、公社からの業務移管の取扱いは。

⑤前管理者が当施設に設置している設備、施設等の許可条件取扱いは。

⑥村施設の食彩市場「たる川」はどう対応するのか。

⑦新たな機能や用途変更を検討するとのことだが、具体案可能性、課題等は。

⑧公社には、経営資源である、「人・物・金・情報」等ノウハウがない状況。「0」からのスタート。スムーズな運営・計画の実現には、村の主体的な取り組みが必要では。

産業企画室長

①評価そのものが来客数・売上の減少につながっている。

推移	来客数	売上額
H27	17.3万人	5,254万
H28	14.6万人	5,086万
H29	10.1万人	3,305万

②各営業施設の中心担当者と早期に打ち合せを行いたい。

③概ね承諾をいただいている。事業計画・収支計画はできていない。計画を策定し、公社

理事会へも説明したい。

④備品等の詳細な取り扱いを決めた要綱等がない。総合的に判断し、別施設での継続使用を承諾。補助金要綱等を定めた上で実施すべきであった。公社としての特産物販売事業も進めたい。

⑤原則、協議により設置。

⑥連携しながら進めたい。

⑦具体案はない。出入口の見直しや既存部分の老朽化に伴う維持管理費が課題。

村長

⑧施設の運営管理責任は村であり、主体的に取り組む。

2. 馬曲温泉について

質問

観光立村として、振興対策が重要な政策課題。成長産業といわれる観光事業は地域経済の活性化の手段として、重要な戦略となる。村の代表的な施設である馬曲温泉構想は。

村長

村の資源として残したい。入り込み客数は、平成3年26万人、現在は6万人。開湯以来30年が経過。施設の老朽化、湧出湯量の減少。新たな源泉開発の可能

性を調査中。その結果により具体的な対策を検討し、財政状況等を踏まえ、中長期的な将来構想が必要と考えている。

産業課長

自然石の石積み工事、取水権の更新に伴う流量調査用水位計の設置工事を予定。また、秋に開湯30周年記念イベントを計画。2018年温泉総選挙の絶景部門にエントリーなど、客足回復のための施策を講じている。

再質問

村全体の入り込み客数は、平成12年53万人、28年20万7千人。基本計画には、村が一体となった観光地域づくりを推進し、31年までに30万人に戻し、地域経済の更なる発展を目指すところが、事業の進捗状況は。

産業課長

現在は産業ネットワーク協議会が進めている。

①滞在型観光の推進

②各観光施設の魅力アップ

③広域観光の推進

④インバウンドの推進

この4点を中心に進めるが、当協議会だけでなく、木島平観光（株）、観光協会などの組織体が連携しながら進めていく。



勝山 正 議員

1. 産業ネットワーク協議会 について

質 問

地域社会の活性化を図るため、産業ネットワーク協議会（以下「協議会」）を立ち上げた。道の駅ファームス木島平での運営も1年が経過し、現状と今後について2項目の質問をする。

《1項目目》

- ① 観光情報を中心とした総合案内、特産品の販売、イベント企画、旅行商品の企画造成等を実施しているとされているが現況は。
- ② それぞれの業務における効果・実績は。
- ③ スタンプラリーの効果は。
- ④ 細かい情報は、職員が出向き収集することだが、発信方法は。

- ⑤ 協会員との意見集約を実施する中で、協会事業・観光振興政策を総括することが必要とあるがその結果は。
- ⑥ 法人化への具体的方法論についての結果は。

産業課長

- ① 今現在も実施している。
- ② 特産品の売上げ約120万円。イベント企画は、スタンプラリーなどを実施。県観光部主催の旅行商品相談会の参加など。
- ③ 商品交換数293人、滞在時間は、1人あたり95分。参加店舗は25店舗。全宿泊施設のご協力もいただいた。村内商店等の滞在時間が増え、経済効果もあつた。
- ④ ウェブサイト「めぐる木島平」とフェイスブックやインスタグラムページも同時に開設し、情報の一元化を目指す。
- ⑤ 会員自らが誘客・宣伝対策等に積極的に取り組める組織・システムの構築での意見集約は出来つつある。一般社団法人化を目指す。

- ⑥ 協議会総会での本年度事業計画で、法人化については認めていただいている。

質 問 《2項目目》

協議会総会が開催され、当初の構成団体より2団体減り、新体制での事業計画が樹立された。

- ① 協議会の事務局を産業企画室から産業課に移管された根拠。
- ② 旅行業取扱管理者を配置とされているが、該当者はいるのか。旅行会社に勤務、実務経験が豊富な方がいる。携わっていただければ、業務の充実が図れるのでは。
- ③ 補助金等に頼らない経営をとの意見もあるようだが、計画・立案・検討・実施・検証・精査を、単年・複数年ごとに計画されているか。
- ④ 観光客を30万人に増やすとのことで、構成団体とのつながりが更に必要だが。
- ⑤ 事務局をファームスに置くことされている。配置構成は。
- ⑥ 現在の案内所窓口の配置では機能されていないように見える。将来的に改修することを考えているか。

産業課長

- ① 産業課・産業企画室全体の重要課題として、横断的な事業進捗を図る。
- ② 国内旅行業資格取扱管理者資格、旅程管理者資格の保有者が1名。旅行会社で勤務されていた方には、業務の講義等をお願いする。
- ③ 安定的な財源確保に取り組む。目指す姿は、補助金などに頼らない健全経営。
- ④ 農商工観連携による「観光地域づくり」が本来目指すべき姿。観光施策の効果は地域全体に広がるべき。
- ⑤ 総合案内を主体的に担当することが考えられる。今後、村・農業振興公社との業務分担により、必要人数の配置をする。協議会が、道の駅全体の管理運営を主体的に行えるよう人材の確保と育成に努めたい。
- ⑥ 改修必要な点は多く想定される。老朽化に伴う施設の修繕や、国道403号の改良工事に伴い発生し得る改修を優先的に対応すべきと考えている。



江田宏子 議員

1. 農の拠点事業の検証と今後について

質問

これまでの取り組み方等を検証し、全職員、改めて気を引き締めて、様々な事業に向き合う必要がある。

次の点の説明を求める。

①開業前に農業振興公社（以下「公社」）が扱っていた加工品や米等の現状は。

②近隣の道の駅と一線を画した発想で、一般的な道の駅のイメージから脱却することが必要。構想はあるか。また、ファームス活用検討委員会の意見をどう受け止めているか。

村長

②用途変更の場合、補助金返還等、条件が厳しい。そうならない形で検討したい。

産業企画室長

①各種特産品等の販売も既に公社で再開。今後は新鮮屋や道の駅での直売所運営を中心に、再度特産品販売事業を進めたい。②加工室を公社が中心となつて進める考え。活用実績のない施設も含め総括的に考え、木島平村らしさが伝わる道の駅を目指したい。

レストラン、カフェ、直売所は、検討委員会で頂いた意見に沿った営業再開を目指し、その他の項目も、維持管理費や修繕費等も考えながら、できることから取り組みたい。

2. 副村長の就任にあたって

質問

①どのような姿勢で村政に携わり、どのようなことに力を注ぎたいと考えているか。

②「農の拠点関連事業」に担当として当初から直接関わってこられたが、これまでの思いと今後の向き合い方は。

副村長

①村長が進める「村民福祉の向上と安心して暮らし続けることができる村づくり」に向け

た様々な政策・企画の実現を、職員の先頭に立つて取り組みたい。

特に力を入れたいことは「人材育成」。それには、まず自ら学んでいきたい。

②これまで職員として、どの部署でも村の発展につながるよう取り組んできた。農の拠点事業も同様。職員の立場では与えられた仕事に意見等は述べながらも懸命に取り組むのが任務。最終的な判断は村長。早期に順調な運営ができるよう、現在の立場で一生懸命取り組みたい。

3. 実践的な災害対策について

質問

昨年、前総務課長から「検討する」「集落へ検討をお願いする」という趣旨の答弁だった次の点について、現況を伺う。

①分館等が危険な場合（地震・洪水・土砂災害等）及び積雪期や夜間の一次避難に関する各集落の検討状況は。

②様々な状況（夜間や積雪期等）

を想定したより実践的な「村ぐるみ防災訓練」が必要ではないか。

③災害時の職員初動対応カードの必要性は検討されたか。

総務課長

①学習会を開催したり、率先して訓練している集落もある。集落ごとでの、様々な災害を想定した訓練や、避難経路入りの防災マップ作成など、災害時に備えた行動につながる取り組みを区長会等で相談したい。

集落担当職員が役割を担えるよう、職員内でも共有したい。

②村全体で行う場合は基本的な訓練になってしまうが、年に一度は全村民で災害に対する意識を高めたい。

③「職員のための災害活動マニュアル」を定めているが、あらゆる災害に対応できるように、常に見直しが必要。

その他、4. 決算の考え

方について、事業評価を次年度以降に活かすための決算への向き合い方について質問しました。



吉川 昭 議員

1. 馬曲温泉の状況と 源泉掘削について

質問

昨年の質問では、新しい源泉の調査と掘削の計画を伺った。
① 調査の経過と見通しはどのような状況か。
② 客数の最近の状況と長期の推移はどうか。

産業課長

① 湯量3分の1となり、代替となる源泉の可能性について検討する目的で調査している。地表を見て歩く調査と電磁波を飛ばしての調査を行っている。今後は自然放射線探索を行う。掘削するかどうかはこの結果を検証し、基本計画、財政計画、実施計画を決定していく。
② 入込客数は平成3年の26万人をピークに昨年は6万人となっている。

再質問

昨年は、調査と掘削に力強さを感じた。冬季に野沢温泉村在住の外国人が、馬曲温泉のような露天風呂は野沢にはないということでも馬曲まで通われているという話も聞いている。農業と観光の村、観光の重要な資源と思う。前向きな検討をしていたきたい。

村長

馬曲温泉の維持、発展については、従来と気持ちは変わっていない。財政的な状況も考慮しながら、前向きに取り組んでいきたい。

2. ファームス木島平の公募に 関した農村木島平(株)との1年間 の経過と今後の運営について

質問

3月末の指定管理期間終了に伴い、昨年7月より、村と農村木島平(株)との間で5回にわたる協議がされてきた。1回目から4回目の3月5日までは、業務委託を一般公募する内容であったが、5回目の3月20日には、一般公募による委託は行わない、村直営管理とし営業部門は農業

振興公社が管理、不採算部門は産業ネットワークが指定管理を受ける。6ヶ月以内に立ち退くよう説明を受けた。

当初は、優先的に加工施設などの委託を受けることができるとの説明だったため、一般公募を前提に加工施設の使用を考えて準備をしていた。今回の急な説明に2年間は使わせて欲しいと訴えたが認められなかった。

また、昨年秋季には利活用検討委員会が開かれ、利活用案と併せて公募についても諮問結果として報告されている。

村の対応には一貫性が全くない。「農業振興公社で」ということを考えていたなら、一年前から双方に準備をさせるよう方針を明確にするべきであった。農村木島平(株)にも、村が事業を行うということで協力してくれた株主もいる。農村木島平(株)に対する配慮はされたか。

農業振興公社で運営する上で利益を追求するのか、農業の振興につながるのか、村長のビジョンを伺う。

村長

多額の経費・費用を投じた施設である。農業振興や村の活性化の拠点として活かさなければならぬ。紆余曲折についてはお詫びする。農業振興公社は、米、そば、野菜などをPRしていく。利益を追求する組織ではないが、必要な費用を生み出す努力をしていく。

再質問

5回目の内容が極端に変わった原因に、3人の議員が「一般公募をして農村木島平(株)だけが応募をした場合、農村木島平(株)になる。それでは困る。ファームス木島平の管理を農業振興公社にすれば3月議会に提出の議案は可決する。農業振興公社の赤字は議会が承認する」と村側に申し入れをしている。協力するのではなく全てを否定しては、村の支出は増えていく。

村長

農業振興公社がレストランに関わっていくことは、その前の段階で私が言ったことである。最終的に多くの皆さんにご理解いただき村の活性化の拠点として、一番よい形を考え最終的に判断した。

こんなことがありました **報告**

全員協議会 (7月10日・19日)

1. 農の拠点施設の管理運営について

① 営業再開店舗について

- ・そば処「村」 11時～14時 火曜定休
- ・CAFÉ REVUE^{レヴュー} 10時～17時 月曜定休
- ・農産物等直売所 10時～17時 水曜定休
- ② 営業再開に伴う施設改修・備品整備等
- ・食堂に小上がり(座卓)
- ・冷蔵庫用電気改修工事
- ・段差の緩和
- ・外部案内看板製作設置 など

③ 課題

- ・各店舗の独立経営の確立
 - ・運営スタッフの確保
 - ・(ふう太ネット・ハローワーク等で募集)
 - ・施設の老朽化(雨漏り、空調対策)
 - ・非収益部門における固定費の継続負担
- この他、収支計画、運営組織、PR等の説明がありました。

2. 臨時会 (7月19日) 提出議案の詳細

報告案件・承認案件・予算案件・同意案件

3. 役場新庁舎整備事業について

7月時点での実施設計図に基づいて、概要の説明がありました。(詳細は、広報2～3ページ)

平成30年第3回議会臨時会(7月19日)

4つの案件が上程され、採決の結果、全て原案のとおり、承認、可決、同意となりました。

① 損害賠償の額を定める専決処分(報告)

【内容】 物損事故の修理費の損害賠償。

② 観光施設特別会計補正予算の専決処分(承認)

【内容】 カヤの平ロジの運営に関する管理費の補正。(財源は利用料)

③ 一般会計補正予算(予算)

【内容】 農の拠点施設事業推進のための補正。施設の修繕や改修、備品の購入など。

④ 農業委員会委員の任命同意

403万9千円増

民生児童委員協議会と議会との懇談会

議会改革の一環として始めた「各種団体等との懇談会」の第5回目は、民生児童委員の皆さん(16人)と意見交換を行いました。委員の皆さんからは、日頃気になっていた点や要望など、次のような意見が出されました。

- ・独居高齢者の増加の心配
- ・買い物支援の必要性
- ・個人情報保護法に苦慮

議員研修(6月～7月)

議員の資質向上や政策提案力の強化等を目的に、次の研修に参加しました。

① 国内視察研修 6月25日(月)～28日(木)

北海道 七飯町・ニセコ町・栗山町

② 全国地方議会サミット

7月11日(水)～12日(木)

東京 早稲田大学

1日目の研修終了後、「わせだいら」の皆さんと懇談会を行いました。

③ 議会広報クリニック 7月12日(木)

東京 全国町村議員会館

④ 長野県町村議会議員研修会 7月20日(金)

伊那市文化会館

※各研修の報告・要旨は、議会だより9月号に掲載予定です。

- ・防災訓練のマンネリ化防止を
 - ・中学校の暑さ対策、湿気対策
 - ・ファームスの冷暖房
 - ・西小路の通学路の早期整備
 - ・荒廃農地対策
 - ・空き家対策 など
- どの意見も住民生活・住民福祉に直結するものです。

議会では、今回挙げられた意見が村の政策に反映されるよう働きかけていきます。

